資料５

気仙沼市震災復興市民委員会の検討内容について

気仙沼市震災復興市民委員会では，これまで４回会議を開催し，復興後のまちのイメージをはじめ，震災復興計画の八つの柱のうち，「市土基盤」，「産業再生と雇用」について意見を交換したところ，次のような意見が示されました。

１　開催状況

(1) 第１回気仙沼市震災復興市民委員会
日時：平成２３年６月１９日（日）１６時００分～１９時１５分
内容：委員会の体制について，市民意見の把握について，など

(2) 第２回気仙沼市震災復興市民委員会
日時：平成２３年６月２６日（日）１３時００分～１６時４５分
内容：各委員の復興に向けた考え方について，市民意見・提言の収集方法，情報の発信方法ついて，など

(3) 第３回気仙沼市震災復興市民委員会
日時：平成２３年７月　９日（土）１５時３０分～１９時１５分
内容：気仙沼市の復旧状況について，柱１「市土基盤」について，情報報発信と意見の集約ついて，など

(4) 第４回気仙沼市震災復興市民委員会
日時：平成２３年７月１３日（水）１４時００分～１８時１５分
内容：復旧に関する状況と今後の進め方について，柱２「産業再生と雇用」について，など

２　復興後のまちのイメージ（各委員の復興に向けた考え方について）

(1) 安全で災害に強いまち，弱者に優しいまちであること
（自然公園，高い避難建築物）
(2) 産業も生活も環境に配慮したまちであること
（自然エネルギー）
(3) 自然と産業が調和するまちであること
（景観の保全，自然観光と産業観光をミックスした観光，ゾーニング）
(4) 新しいものと古き良きものが調和するまちであること
（街中美術館，伝統のケア，コミュニティのケア）
(5) コミュニティ，集落を大切にするまちであること
（集会所福祉施設，新しい住宅エリア，移転）
(6) 自然も産業も歴史も震災も復興も，子供たちに受け継げるまちであること
（子供たちを安心して育てられるまちであること）
(7) 世界に開かれた，世界に開いたまちであること
（世界から応援され続ける，世界に発信しつづける）
(8) お洒落で格好のいいまちであること
（世界基準の港町，誰もが住みたくなる港町，東北のルネッサンス）
(9) 人口，産業所得規模が震災前同等規模以上のまちであること
（経済のみ優先ではない，しかし衰退でもない）

３　柱１「市土基盤」について

(1) 被災地域の土地利用と再生の考え方について

・ライフライン関連施設の一極集中は災害に弱いことが判明したことから，下水道と合併浄化槽の使い分けや水源や電力の供給源を分散化する工夫が必要。
・今般事業が進められることになった三陸縦貫自動車道を縦軸と捉え，今後は一関市までの横軸の高速道路等の整備が必要。
・今ある土地の価値が下がらないゾーニングが必要。
・被災地域のかさ上げの高さを早く決めて事業者が動きやすい環境を整備すべき。高さは地盤沈下などを加味して1mから1.5mくらいとしてはどうか。建築制限区域外についても併せて検討すべき。
・賑わいづくりの観点から下層に商業施設を置き，高層部に住居を構える高層住宅を整備してはどうか。

(2) 道路や交通体系の整備について

①　ＪＲについて

・通学と通院の利用者が主であることから，病院や学校の近くに駅を置くよう配慮すべき。
・気仙沼線を内陸に移すことで，津波等への多重防御も可能になるのではないか。
・気仙沼らしさが感じられるよう魚市場に近い南気仙沼駅を観光の玄関口としてはどうか。
・被災地域を通す場合は鉄道の高架化が必要。

② 道路について

・交通渋滞を緩和する避難道路の整備と併せて避難する人や車を受け入れる広い場所の確保が重要。
・避難しにくい曲がりくねった道が被害を拡大する原因になっていないか。

(3) 住まいの再建について

・高台に住居を構える方が多くなることを見込んで坂道沿いに商店を置くなどの工夫が必要。
・高台移転を行うのであれば景観を生かした住宅用地の整備が必要。
・将来人口を見直した現実に則した施策形成が必要。
・復興住宅の建設にボランティア等からの申し入れを活用すべき。

4 柱２「産業再生と雇用」について

(1) 既存産業の復興・復旧について

・七十七銀行提供の産業連関表の資料をみると，気仙沼市では，水産業と水産加工業が基幹産業であり，この産業の復興を行うことが重要であることがわかる。
・水産加工業の人の中には，今すぐにでも事業を再開できるなら，再開したいと言われる方もいる。9月11日以降に建築制限が続くような場合には水産加工特区でも設けて，再開することを認可できないか。
・しかし，産業にスピードが大切だという一方で，自由に再開を許可してしまうと，また前と同じような街になってしまわないか。産業として望ましい，利便性のあるゾーニングを考えていかなければならないのではないか。
・こういった，どの場所にどういった産業を配置することが望ましいかは，専門の検討会を立ち上げたほうが良いのではないか。

(2) 企業等の誘致について

・復興に向けて，一定量，建設の需要が見込めるわけだから，クリーンエネルギーの組み立て業を誘致することも考えられる。
・企業の誘致でも，本社機能の誘致がよいと思う。労働集約型の企業誘致は，短期的なもので，いずれ労賃の安いところに行ってしまう。知識集約型の企業誘致が必要。
・ユニバーサルデザインをうたうことで，福祉の企画をする企業，ITを活用した福祉を進めることも考えられる。雇用の吸収力という観点では，製造業等には劣る部分があるので，優先順位づけも必要である。
・企業の対外進出支援も必要である。気仙沼市の産業の技術を世界で展開するということも考えていってはどうか。
・国連の水産研究機関や津波の研究機関を誘致するということがよいのではないか。教育機関の誘致も検討すべき。ただし，大学の誘致となると設置の基準が厳しいので，実現可能かは慎重に検討が必要である。
・どんな企業であっても，20年後，30年後の目標がはっきりしていないと，そこに投資することができない。
・企業市民として，いっしょに夢を追いかけてくれるところがよい。
・時代が変わって，すべて行政頼みというところはない。NGO，NPOを媒介にして，企業を誘致するという考えあると思う。
・福島では，土地の価格を安くして，企業を誘致している。誘致する企業だけでなく，既存の企業についても法人税を下げるなどが大事ではないか。

(3) その他

・防災教育のためにも，かさ上げしないエリア（公園として）があってもよい。
モニュメントをつくることで，文化的に豊かなまちになってくれると良い。それが観光につながれば尚良いのではないか。
・津波に流された船の保存を検討しても良いのではないか。子供たちに現実をしっかり理解してもらうためにも，災害の記憶をしっかり保存することは大切なのだと思う。
・産業と自然の組み合わせということで，魚市場の屋上をジャングルにして，市としての自然と共に生きることの意志表示をしていってもよいのではないか。
・また，世界遺産に指定された平泉との関係もあり，訪れてもらいやすくなると思う。